

登録コード	TSH59500		開講年度	2026			
授業科目	複雑ネットワーク特別実験					担当教員	千葉 龍介
英文授業名	Complex Networks Laboratory 2					副担当	TIAN YANG
単位数	4	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期		対象学生
講義室				授業形態	実験	備考	情報数理・融合システム分野2年生
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				【授業の達成目標】		
	2 6 TSカリ, 2 5 TSカリ						
	【専攻】工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観				ヒトを対象とした複雑ネットワークシステムに関する各技術・手法を実験により再現し、さらに応用しより発展させることができるようになる。		
(2)授業の概要	研究課題に直接関係する分野の実験を実施する。所属学生を中心とした、研究に関する実験・演習・議論を深く行う。生体システム技術の最新のトピックスに関する手法を基に、受講者自らが開発を行い、各技術・手法の数理的基礎を理解するとともに、技術・手法の特長、限界、発展性等について議論を行う。						
(3)授業計画	1. 生体システム実験1 2. 生体システム実験2 3. 生体システム実験3 4. 生体システム実験4 5. 生体システム実験5 6. 生体システム実験6 7. 実験結果発表会						
(4)成績評価の方法	受講者が作成するプロダクトおよびそのプレゼンテーションの内容（技術・手法の数理的基礎の理解の妥当性、評価の妥当性、研究実施等）に基づいて総合的に評価する。						
(5)成績評価の基準	(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」。						
(6)事前事後学習の内容	受講者毎のプロダクトの作成を事前に行い、発表内容のアブストラクトとプレゼンテーションの準備を事前に行う。ディスカッション内容（技術・手法の改良、評価の妥当性や問題点の指摘等）に基づいた纏めを事後に行う。						
(7)履修上の注意							
(8)質問,相談への対応	質問は原則メールを用いる。アドレス：rchiba@shinshu-u.ac.jp						
(9)その他							
【教科書】	指定しない						
【参考書】	随時指定する						